

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3190200216		
法人名	医療法人社団 やまもと		
事業所名	グループホームやまもと		
所在地	鳥取県米子市観音寺新町1-10-6		
自己評価作成日	令和5年3月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3190200216-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号
訪問調査日	令和5年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自分らしく、健康で安心して過ごしてもらえるように、日々利用者様の思いに寄り添い笑みを絶やさずに職員一同心掛けています。
ご家族や地域の方々が訪れやすいホームを目指しています。現在は新型コロナウイルス感染症のため行えていませんが、以前は月1回サロンをホームで行ってもらっていました。感染状況が落ち着いたら、再開ができればと考えています。新しい生活環境に対応しながら、地域にねざし、利用者様に住み慣れた環境で生活してもらえるように支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地に開設され10年を迎えられる1ユニットのグループホームです。
母体法人の医師がホームドクターとして適切な医療が受けられるよう支援されており、健康で安心な日々を過ごして頂ける体制があります。
一人ひとりの状態・能力に応じて、掃除・洗濯物を干したり、畳んだり、食後の片付けなど自発的に出来るよう働きかけ、役割のある生活を送って頂けるよう支援されています。
食事は3食手作りで提供されており、献立のリクエストも職員と話しながら取り入れられており、誕生会・行事食・手作りおやつなど食事の楽しみも大切にされています。
現在はコロナ禍になり、エントランスで行なわれていたサロンが中止になっていますが、地域の方々との交流の場として、再開を目指しております。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲載いつでも確認できるようにしている。週初めの朝礼時、勤務者全員で唱和し、意識付けを行い実践に繋げられるようにしている。	週初めの朝礼時、勤務者全員で唱和する等、理念の理解に努め、実践につながるよう努めておられます。 外部評価を受けられることにより振り返りの機会が設けられています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り清掃活動など地域の活動に参加している。以前はサロンなどで交流を図っていたが現在は感染対策のため自粛している。	自治会の清掃活動は利用者の方々も感染予防を行いながら、参加されています。開設当初から開催されていた地域の方々との交流のためのサロンもコロナ禍の為中断していましたが、状況を見て再開を予定されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染対策を行い、清掃活動等、参加できる地域の活動に利用者様と一緒に参加し、地域の方へ認知症の方の理解を深めてもらっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行い、利用状況やサービス提供の状況などを報告し、会議参加者から意見を聴きサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催されています。コロナ中の為書面開催が中心に行われています。利用者の状況、活動内容、ヒヤリ、インシデント報告をお送りして、意見等を頂いております。コロナの状況を見ながらリアル開催を予定しております。	地域からの委員や家族にも理解しやすい内容も交えながら、活発な意見をいただけるよう、運営推進会議の進め方の検討をされることに期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者へは必要時に連絡を取り、運営推進会議にも市職員・包括支援センター職員に参加してもらい、アドバイスをいただいている。また、防災訓練などに一緒に参加してもらい利用者様の状態の把握をしてもらっている。	市役所とは日頃より連携が図られています。運営推進会議の委員にも市役所・包括支援センター職員に出席頂き意見等をもらわれています。防災訓練への参加頂き利用者の状況等も把握した頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、日々のケアが身体拘束になっていないか職員間で月1回のミーティング時に意見交換し確認・実践に繋げている。日中玄関・窓には施錠せずスタッフは利用者様の行動、様子を確認をしながら対応を行っている。早朝・夜間の職員が1人になる時間帯は施錠を行っている。	身体拘束廃止委員会の設置もされ、年6回開催されています。身体拘束の職員研修、毎月のミーティングにおいても身体拘束について振り返り、確認をされ、身体拘束のないケアの実践につなげておられます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、虐待や不適切なケアが行われていないかを職員間で話し合う機会を持ちケアに活かしている。また、個々の支援が抑制になっていないか日々職員間で確認をしている。	虐待防止委員会の設置もあり、身体拘束廃止委員会と同時に開かれています。日頃から不適切なケアがないか、個々の支援が抑制になっていないか接遇に対しての確認も職員間で行なわれています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い制度の基本的理解を図っている。対応が必要なケースについては随時職員へ説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約などについて、また改定などに際しては重要事項説明書に基づき説明を行い理解を得られた際に署名をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の参加を依頼し意見の反映に努めている。また、面会時などに個別に要望を受けたときは職員間で共有をし支援に繋げている。	運営推進会議に参加される家族からの意見、プラン評価・見直しの際の意見・要望、面会時にも要望等を伺われ、意見が運営に活かせるよう図られています。個別に相談された事は職員間でも情報共有を行ない支援につなげておられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて意見交換を行ったり、随時職員との面談、話し合いの機会を持ち、職員が上がっている意見を本部とのミーティングにて報告し反映に繋げている。	3ヶ月に一度のモニタリングとは別に、毎月のミーティングが開かれ、活発な意見交換が行われています。また、職員からの意見は管理者より本部とのミーティングで報告され、反映につなげておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員に関して、給与水準、労働時間、やりがい、向上心をもち働きやすい職場環境の整備に努め、子育てや介護をしても働き続けられるように努めている。	法人として単独のホームですが、処遇面も整い職員の定着率もよいので、風通しのよい働きやすい職場環境になるよう努めておられます。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修等に参加できるように勤務の調整を行っている。研修参加者は後日、他の職員へ伝達講習を行っている。	資格取得のための研修等に参加できるよう勤務の調整が行われています。研修参加後はホーム内で伝達講習も行われています。現在はコロナ禍になり、リモート研修が中心です。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥取県のグループホーム協会に入会をし他施設との交流ができるように取り組んでいる。現在は感染対策のため交流など自粛している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、ご利用者・ご家族から生活状況を聴き取り、困っていること、不安なことなどを確認し職員間で共有し本人の安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にアセスメントを行い、その際にご家族の要望、困り事や不安な事を確認しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた際にグループホームでの支援の内容を理解してもらい、現状で支援が困難な場合は他の事業所のサービス内容の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場という事を考え、その方が希望されている生活に近づける様支援を行い、生活の中で楽しみなどを一緒に見つけれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスへ参加してもらっている。また、ご家族様訪問時に状況報告や相談を重ね、気兼ねなく話せる関係を作り努め、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が慣れ親しんでいる家具を置いたり、思い出の写真を飾ったりして、利用者様を支えていた思い出や人との関りを大切にするように支援している。電話をしてもらったり、現在は感染状況をみて、行政の指示のもと感染対策を行いエントランスでの面会をしてもらっている。	コロナ禍になり、外出制限のあるなか、思い出の写真を飾られたり、昔話をしてく等これまでの大切にされてきた事を大切にできるよう工夫をされています。感染対策を行いながら、エントランスでの面会が行われています。	昔話から回想法へつなげ、本人のやりたい事を引き出せるよう期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染対策を行いながら、行事やレクに参加してもらい交流の場ができるように支援を行っている。必要時は、職員が間に入りコミュニケーションがスムーズにとれるように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、必要時はその後の生活状況、本人の様子について情報交換を行い、必要な支援や相談を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に話を聴きながら暮らし方の希望・意向の把握を努めている。利用者自身での意思決定が困難な場合は、ご本人の状況を把握し家族・職員と連携をとり本人本位の生活ができれば努めている。	利用者はみなさんコミュニケーションが取れる方ばかりなので、毎日職員と会話の中から、本人の希望・要望を伺えるよう努めておられます。医師困難な方の場合にはアセスメントや家族からの情報を基に検討が行われています。	思いや意向の把握から利用者の生きる目標につながるようしていけると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境、これまでのサービス利用の経過など情報を収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報共有し、1人ひとりの生活リズムや、現状の様子を把握し残存能力が活かせるような関りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度モニタリングを行っています。モニタリング以外にも、月1回のミーティング時に利用者様の利用状況等話し合いをし、利用者様一人一人のニーズや課題、ケアの方法等検討しています。また、本人・家族と共にカンファレンスを行い意向に副った介護計画書を作成している。	モニタリングは3ヶ月に一度、評価・見直しは6ヶ月に一度行われています。最初に部屋担当の意見を聞かれ、次に他の職員の意見も確認され、プラン作成が行われています。複数の目で見れるよう医療面から医師の意見も取り入れておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人・生活記録以外にも介護日誌、職員間の申し送りノートを通して情報の共有に努めると共に各シフトに入る際に引継ぎを行っている。	見直しのために必要な時系列な利用者の記録を行ない、紙ベースなのでそれぞれの職員の書き方にならないよう注意されています。評価・見直しの際の変更点は情報共有が行われており、職員間のグループラインの活用もされ、確認されています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてその方のその日の体調・精神状況を観ながら支援を行っている。状況変化は常にあると念頭に置きその時に必要なニーズに対応をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入っている。現在は感染対策のため交流はできていないが、できる状況においては地域の行事に参加できるようにしている。定期的に訪問看護サービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を確認をし法人医師がホームドクターとなり適切な医療を受けれるよう支援している。また、入居前のかかりつけ医について本人・家族の希望を確認をし受診継続できるよう支援を行っている。受診同行の際は日頃の様子を伝えている。	本人・家族の希望を確信され、法人医師がホームドクターとして、往診にも来られ適切な医療が受けられるよう連携されています。歯科は依頼すれば往診の対応が行われています。他科受診等の場合には職員による受診同行を行い医療機関に日頃の様子を伝えておられます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護の訪問があり、健康管理・医療面での相談ができ、お互いの連携により適切な対応ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護連絡票にて医療機関にホームでの支援情報を提供している。入院中には、医療機関と連携を図り退院後の生活にご本人、ご家族が不安を感じられないように支援を行っている。	入院時には、地域連携室と連携を図りながら、早期退院を目指しておられます。退院時には退院カンファレンスが行われ、退院後の注意点等についての説明が行なわれています。現在は電話・書面が中心です。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について事業所の力量や体制など十分に説明をし早い段階から主治医を交えてカンファレンスを行いご本人、ご家族の意向を確認するように取り組んでいる。また、職員への研修を行っている。	利用開始時には利用契約書に記載されている「看取り指針」についての説明が行われています。早い段階より医師、家族も交えて本人・家族との意見交換を行いながら看取り対応が話し合われています。現在までターミナルケアを希望される方はありません。また、職員への研修も行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応についてマニュアルを整備し、周知を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した訓練も含め年に2回の火災訓練を行っている。現在は感染対策のため職員・利用者へのみの実施となっている。	夜間を想定した訓練を含め年2回の火災訓練が実施されています。食料の備蓄もされており、事業継続計画(BCP)の作成も行われています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄に関する支援については利用者の自尊心やプライバシーに配慮し声掛けや対応を行っている。往診、面会に関してもプライバシーが保てるように配慮している。	入浴・排泄時には利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けを心掛けておられます。居室は個室なっていますので、往診・面会時にもプライバシーは守られています。なお、現在はコロナ対策のためエントランスでの面会になっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや嗜好を把握し、自己決定をしていただけるように働きかけている。また、利用者様1人1人への声掛けについても理解しやすい言葉かけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	次第に重度化され意思の疎通が困難となられた場合も、その方の日々の状況に応じてその方が暮らしやすいように留意をし、ご本人に確認をとり支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、その日の気温などを考えながらご本人と相談し、その方の好みに合わせ支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員が作成をし利用者様の希望や旬の食材を取り入れている。現在は感染対策のため一緒に食事をしていないが傍には滞在し、必要時の声掛けや対応ができるようにしている。準備、片付けなども利用者様の能力に応じて役割を担っていただいている。	食事は、3食手作りで提供されており、スーパーのチラシを見ながら職員と一緒にメニューの希望も話されています。誕生日会や行事食、手作りのおやつ、コロナ禍で外食に行けないので、テイクアウトも利用されています。それぞれに応じたお手伝いも行われており役割分担もされています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録に残し、水分量の少ない方に対しては好みの飲み物に変更し摂取していただくなど状態に合わせ対応行っている。食事形態など1人1人に適した状態にて対応を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者の状態に合わせて自分でできる方には声掛け・見守りを行い、支援の必要な方には介助を行って関しては介助を行っている。誤嚥性肺炎・感染症の防止に努めている。	毎食後にそれぞれの状態に合わせて、声掛けや見守りを行ない、支援の必要な方には介助されています。義歯は夜間に洗浄液に入れ、清潔保持が行われています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表に記入し、個々の排泄パターンを把握でき、支援をするようにしている。個々の排泄パターンを把握することで、できるだけトイレでの排泄が出来るように支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握され、それぞれに応じた支援が行われています。全員トイレで排泄されており、布パンツの方も多くおられますので、現状維持ができるように努めておられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認をし、発酵食品、乳製品・食物繊維など食事の内容にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴ができるように対応している。ご利用者の体調や時間など確認し清拭、部分浴などにて対応し無理なく入浴していただけるように対応をしている。	基本的には入浴は午後からですが、利用者の希望に沿えるよう午前中入られ方の対応もされています。入浴拒否傾向の方もありますが、声掛けの工夫や曜日を変え対応されています。行事や面会に対応できるよう曜日は休みです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで過ごしてもらえよう働きかけしている。昼夜逆転にはならないよう、必要時は声掛けをし、無理のないように日中の活動を増やし夜間は心地よく眠れるように環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書をファイルに綴り薬の目的や副作用、用法や容量について把握ができるようにし、変更時は職員全員で周知をし、臨時薬の服用時についても状態変更の観察に努めている。	調剤薬局から分包された薬が配達され、一人ひとりの薬の確認をされ、服薬時には間違いのないように再度確認され、直接手渡しされ飲み終わるまで見守られています。処方薬の説明書はファイルに綴られ、薬の目的、副作用、用法、容量について把握され、変更時には職員で周知され状態変化がないか観察され、変化があれば医師に連絡されています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の能力に応じた役割を持っていただき、掃除・洗濯物を干したり畳んだり、食後の片付けなど自発的に行っていただけるように働きかけ、役割のある生活を送っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染対策のため、外出・面会など控えているが、天候をみながら施設周辺の散歩を行っている。	現在は感染予防のため外出・面会を控えておられますが、コロナも落ち着きを見せてきており、桜の花が咲きだしたので、利用者の方も楽しみにされています。近所を30分程度散歩される方もあるので、これから気候がよくなれば外気にあたり、季節の移ろいを感じて頂けるよう支援される予定です。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は必要なものの購入などは家族様に対応していただき、お金は所持されていないが、希望者は多くない額を自己管理してもらっている。買い物時は、自身で支払いできるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自ら電話を掛けられている。他の方は必要な時に職員が対応し、かかってきたときは本人へ取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場、各居室は毎朝掃除を行い清潔に努めている。リビングは自然の光が入るようにし、壁には季節の飾りつけなどご利用者・職員との共同作品を展示している。温度、室温などの調整、換気などに配慮している。	明るく、ゆったりとしたリビング、エントランスも広くサロンにも行われています。壁には季節感を感じて頂けるような飾り付けもされています。温度・湿度に気を付け、定期的に換気を行ない、快適な空間環境で過ごして頂けるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に自由に戻ったり、リビングでは席を移動するなど快適に過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたもの、また使いやすいものを持参してもらい自宅での生活に近い状態になるように家具の配置等配慮をしている。また、家族の写真などを飾り、本人が居心地よく過ごせるように工夫を行っている。	居心地良い居室になるよう、自宅での生活に近い状態なるよう配慮され、バッドのレイアウトも動線を確認し、それぞれの利用者に対応した配置になるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできることは自分で行っていただくように働きかけている。見守り、確認を行い安全かつ自立に近づけるように支援を行っている。		